



厚生労働省奈良労働局発表  
令和4年5月30日

担  
当

奈良労働局労働基準部健康安全課  
課長 能勢 大藏  
安全衛生係長 榎 俊太郎  
電話 0742-32-0205

## 令和3年の労働災害は大幅に増加

～令和3年労働災害発生状況（確定値）～

厚生労働省奈良労働局（局長 鈴木 伸宏）では、令和3年（1月～12月）に県内で発生した休業4日以上の労働災害の発生件数を次のとおり取りまとめました。

〈ポイント〉

### 1 奈良県内の労働災害による死傷者数は大幅に増加（死亡者数は前年と同数）

- ・令和3年の労働災害による休業4日以上の死傷者数（以下「死傷者数」という。）は1,613人（うち新型コロナ感染によるもの177人）で、令和2年（1,347人、うち新型コロナ感染によるもの61人）と比較して266人増加（うち新型コロナ感染によるもの116人）となった。
- ・令和3年の労働災害による死亡者数は9人（前年同数）であった。

### 2 業種別では、第三次産業、製造業、建設業の労働災害が増加

- ・増加数が最も多かったのは第三次産業であった（R2：722人→R3：890人）。
- ・第三次産業のうち最も増加数が多かったのは社会福祉施設であった（R2：154人→R3：242人）。
- ・その他の主な業種では、製造業（R2：269人→R3：365人）、建設業（R2：136人→R3：163人）は増加し、運輸交通業（R2：152人→R3：151人）、林業（R2：39人→R3：21人）は減少となった。

### 3 高年齢労働者の死傷者数は大幅に増加（全体に占める割合は前年と同水準）

- ・60歳以上の高年齢労働者の死傷者数は、前年より大幅に増加（R2：367人→R3：432人）したが、全体に占める割合は26.8%となり前年（27.2%）と同水準であった。

### 4 安全衛生教育推進キャンペーン実施中

- ・新型コロナ感染以外の理由で死傷者数が前年より150人増加しており、転倒や腰痛等、高年齢労働者や未熟練労働者の増加による影響が考えられることから、奈良労働局では、小売業、社会福祉施設及び飲食業を対象に、4月から6月まで安全衛生教育推進キャンペーンを実施中（資料参照）。
- ・「第95回全国安全週間」を7月1日から実施予定。

# 1 災害の特徴等

## (1) 死亡者数の動向

- ・令和3年における死亡者数は9人となり、前年と同数となりました。
- ・死亡災害が発生した業種は「建設業（5人）」「運輸交通業（3人）」「商業（1人）」でした。
- ・事故の型別では「墜落・転落」が4人、「飛来・落下」、「崩壊・倒壊」、「はさまれ・巻き込まれ」、「交通事故」、「分類不能」が各1人となりました。

## (2) 死傷者数の動向

- ・令和3年の労働災害による死傷者数は1,613人となり、前年に比べ19.7%増加しました。
- ・事故の型別の構成比は、「転倒」22.3%、「動作の反動・無理な動作」15.9%、「墜落・転落」14.5%、「はさまれ・巻き込まれ」12.9%、「切れ・こすれ」6.8%、「交通事故」5.9%となりました。

事故の型	発生件数 (令和3年)	構成比 (令和3年)	発生件数 (令和2年)	構成比 (令和2年)	対前年増減率
転倒	360	22.3%	290	21.5%	+24.1% 
動作の反動・ 無理な動作	233	14.4%	214	15.9%	+8.9% 
はさまれ・ 巻き込まれ	196	12.2%	174	12.9%	+12.6% 
墜落・転落	181	11.2%	195	14.5%	-7.2% 
切れ・こすれ	99	6.1%	92	6.8%	+7.6% 
交通事故	77	4.8%	80	5.9%	-3.8% 

※典型的な労働災害の「事故の型」とは以下のものです。

- ・**転倒**：通路や床などで足を滑らせたり、何らかの物につまづいて転ぶ場合のほか、重機を運転していて、横転した場合を含みます。
- ・**動作の反動・無理な動作**：腰痛のほか、ねんざを含みます。
- ・**はさまれ・巻き込まれ**：運転中の機械などに体の一部をはさまれたり、巻き込まれたりして死傷するほか、ドア、台車、荷物や資材などに手足や指をはさむ場合を含みます。
- ・**墜落・転落**：高所から落ちて死傷するほか、はしごや階段などから足をすべらせた場合、車や重機を運転していて作業場や道路から落ちる場合を含みます。
- ・**切れ・こすれ**：機械や手工具などで体の一部を切ったりこすったりして死傷するほか、包丁や割れた食器で指等を切る場合を含みます。
- ・**交通事故**：公道上での事故のほか、私有地内での事故も含みます。

### (3) 業種別の動向

業種別では、林業では死傷者数が減少しましたが、製造業、建設業、保健衛生業や商業を含むほとんどの第三次産業では死傷者数が増加しました。運輸交通業については横ばいとなりました。

#### 【製造業】

〔総論〕

死傷者数は前年に比べ 35.7%と大幅に増加しましたが、死亡者数は0人でした。

〔労働災害の様態〕

死傷者数の構成比を事故の型別に見ると、「はさまれ・巻き込まれ」が30.4%と全体の3割を占め、次に「転倒」17.5%、「動作の反動・無理な動作」10.1%と続きます。

「はさまれ・巻き込まれ」は機械設備に身体の一部が挟まれる災害が多く、修理、清掃、異物の除去等の非定常作業の際に当該機械設備を停止していない事例が多く見受けられます。

#### 【運輸交通業】

〔総論〕

死傷者数は前年に比べ0.7%減少しました。死亡者数は、前年0人でしたが3人の増加となりました。

〔労働災害の様態〕

事故の型別で見ると、「墜落・転落」が21.2%を占めています。運輸交通業の死亡災害のうち2人はトラックの荷台から墜落し亡くなったものです。

運輸交通業の災害は、6割以上が荷物の積み下ろし作業中など、荷を取り扱っている作業中（荷役作業中）に発生していることが特徴です。また、交通事故は死傷災害の6.6%です。

#### 【建設業】

〔総論〕

令和3年の死傷者数は163人となりました。前年に比べ19.9%と大幅に増加し、死亡者数についても、前年の3人から2人増加の5人となりました。

〔労働災害の様態〕

死傷者数の構成比を事故の型別に見ると、「墜落・転落」が24.5%を占めています。「墜落・転落」災害の多くは「はしご」や「脚立」等の使用中に発生（45.0%）しています。「はしご」や「脚立」からの「墜落・転落」は比較的 low 所から墜落し、骨折等の重大災害となる事例も多くみられます。

なお、建設業では2人が「墜落・転落」災害により死亡しています。

## 【第三次産業】

### 〔総論〕

令和3年の死傷者数は第三次産業全体で893人となり、前年に比べ23.2%増加しました。

第三次産業全体の死亡者数は前年の4人から1人に減少しました。

第三次産業の死傷者数を構成業種別にみると、飲食業、産業廃棄物業で減少している一方、「保健衛生業（病院、社会福祉施設等）」、ゴルフ場業では大幅に増加しました。

なお、「保健衛生業（病院、社会福祉施設等）」の死傷者数の増加については、新型コロナウイルス感染症に罹患した労働者が128人いましたので、感染拡大に伴う社会情勢の変化も要因の一つとして考えられます。

### 〔労働災害の様態〕

第三次産業では、「転倒」または「動作の反動（ねんざや腰痛など）」による死傷者数が死傷者数全体の約半数を占めることが特徴です。

### （ア）小売業

小売業の死傷者数は、前年に比べ8.9%増加しました。

死傷者数の35.9%が「転倒」、12.0%が「交通事故」によるものでした。

小売業では、バックヤードや店内の移動の際の転倒や、カゴ車（カーゴテナー）の使用時にカゴ車に轢かれる等により負傷する事例が多く見られます。

また、交通事故は新聞販売業で多く発生しており、交通事故による死傷者数25人のうち21人（84.0%）は新聞販売業の労働者でした。

### （イ）社会福祉施設

社会福祉施設の死傷者数は、前年に比べ57.1%増加し、4年連続の増加（H29：89人→H30：115人→R1：133人→R2：154人→R3：242人）となりました。

死傷者数の22.7%が「転倒」、20.7%が「動作の反動・無理な動作」によるものでした。社会福祉施設においては、「転倒」「動作の反動・無理な動作」の2事例で全体の死傷者数の4割を占めています。

なお、令和3年においては、新型コロナウイルス感染症による死傷者が社会福祉施設の死傷者数の36.4%を占めました。

社会福祉施設では、訪問看護先や施設内における移動時の「転倒」や、被介護者の移乗や寝具上での体位変換などの場面で「動作の反動・無理な動作」により被災する事例が多数発生しています。

### （ウ）飲食業

飲食業の死傷者数は、前年に比べ6.4%減少しました。

死傷者数の27.3%が包丁や割れた食器等による「切れ・こすれ」、25.0%がフロアーや厨房等での「転倒」でした。

また、お湯や高温の蒸気で火傷を負ったものも20.5%ありました。

### （エ）その他の第三次産業

通信業（郵便局等）の死傷者数は、前年に比べ44.4%増加し、死傷者のうち30.8%が「交通事故」でした。

廃棄物処理業の死傷者数は、前年に比べ22.2%減少しました。死傷者数の多くはごみの収集作業中に被災しています。

## 2 高年齢労働者の労働災害

- ・60歳以上の高年齢労働者（以下、「高年齢労働者」と称する。）の令和3年の死傷者数は432人となり、前年より65人増加しました。
- ・令和3年の死傷者数の年齢別構成比では高年齢労働者の構成比は26.8%となり、死傷者の4人に1人は高年齢労働者という状況となっています。
- ・業種別にみた高年齢労働者の死傷者数は、商業が最も多く（104人）、次いで保健衛生業（85人）、製造業（78人）の順で多くなっています。

### 参考 業種別で見た主な事故の型の発生割合

業種	転倒	墜落・転落	はさまれ・巻き込まれ	動作の反動・無理な動作	切れ・こすれ	交通事故
製造業 (365人に占める割合)	17.5%	9.0%	30.4%	10.1%	9.0%	1.1%
建設業 (163人に占める割合)	14.7%	24.5%	11.0%	6.1%	8.6%	1.2%
運輸交通業 (151人に占める割合)	15.2%	21.2%	11.9%	20.5%	0.7%	7.3%
第三次産業 (890人に占める割合)	27.8%	7.2%	5.1%	17.2%	4.9%	6.7%
全産業合計 (1613人に占める割合)	22.3%	11.2%	12.2%	14.4%	6.1%	4.8%

参考資料1：令和3年 業種別労働災害発生状況

参考資料2：令和3年 発生の死亡災害事例

参考資料3：死亡者数の推移

参考資料4：死傷者数の推移

参考資料5：高年齢労働者の労働災害発生状況

# 参考資料1

## 令和3年 業種別労働災害発生状況 (前年同期対比)

《確定》

業 種	区 分	令和3年			令和2年		死傷者数増減状況	
		9	1,613	(177)	9	1,347	増減数	増減率 (%)
<b>全 産 業 合 計</b>		<b>9</b>	<b>1,613</b>	<b>(177)</b>	<b>9</b>	<b>1,347</b>	<b>266</b>	<b>19.7%</b>
<b>製 造 業</b>		<b>0</b>	<b>365</b>	<b>(17)</b>	<b>1</b>	<b>269</b>	<b>96</b>	<b>35.7%</b>
	食 料 品 製 造 業		63			51	12	23.5%
	織 維 工 業		9			4	5	125.0%
	衣服その他の繊維製品製造業		6	(4)		1	5	500.0%
	木 材 ・ 木 製 品 製 造 業		48			41	7	17.1%
	家 具 装 備 品 製 造 業		9			5	4	80.0%
	パルプ・紙・紙加工品製造業		19	(11)		11	8	72.7%
	印 刷 ・ 製 本 業		9			9	0	0.0%
	化 学 工 業		59			52	7	13.5%
	窯業土石製品製造業		8			10	-2	-20.0%
	鉄 鋼 業		8			8	0	0.0%
	非 鉄 金 属 製 造 業		1			0	1	—
	金 属 製 品 製 造 業		60		1	37	23	62.2%
	一 般 機 械 器 具 製 造 業		21			12	9	75.0%
	電 気 機 械 器 具 製 造 業		8	(2)		6	2	33.3%
	輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業		11			1	10	1000.0%
	電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業		3			1	2	200.0%
	そ の 他 の 製 造 業		23			20	3	15.0%
<b>鉱 業</b>			<b>0</b>			<b>1</b>	<b>-1</b>	<b>-100.0%</b>
<b>建 設 業</b>		<b>5</b>	<b>163</b>	<b>(11)</b>	<b>3</b>	<b>136</b>	<b>27</b>	<b>19.9%</b>
	土 木 工 事 業		1	(1)		39	7	17.9%
	建 築 工 事 業		1	(1)		78	0	0.0%
	木造家屋建築工事業		1			35	-1	-2.9%
	そ の 他 の 建 設 業		3	(9)		19	20	105.3%
<b>運 輸 交 通 業</b>		<b>3</b>	<b>151</b>	<b>(1)</b>		<b>152</b>	<b>-1</b>	<b>-0.7%</b>
	道 路 貨 物 運 送 業		3			125	11	8.8%
<b>貨 物 取 扱 業</b>			<b>3</b>			<b>2</b>	<b>1</b>	<b>50.0%</b>
<b>林 業</b>			<b>21</b>		<b>1</b>	<b>39</b>	<b>-18</b>	<b>-46.2%</b>
	木 材 伐 出 業		18			31	-13	-41.9%
	そ の 他 の 林 業		3		1	8	-5	-62.5%
<b>商 業</b>		<b>1</b>	<b>260</b>		<b>1</b>	<b>228</b>	<b>32</b>	<b>14.0%</b>
	小 売 業		209		1	192	17	8.9%
<b>保 健 衛 生 業</b>			<b>340</b>	<b>(128)</b>		<b>226</b>	<b>114</b>	<b>50.4%</b>
	社 会 福 祉 施 設		242	(88)		154	88	57.1%
<b>接 客 娯 楽 業</b>			<b>85</b>			<b>85</b>	<b>0</b>	<b>0.0%</b>
	飲 食 業		44			47	-3	-6.4%
	ゴ ル フ 場 業		22			8	14	175.0%
<b>清 掃 ・ と 畜 業</b>			<b>80</b>	<b>(1)</b>	<b>3</b>	<b>77</b>	<b>3</b>	<b>3.9%</b>
	ビ ル メ ン テ ナ ン ス 業		34	(1)		21	13	61.9%
	廃 棄 物 処 理 業		42		3	54	-12	-22.2%
<b>警 備 業</b>			<b>19</b>	<b>(3)</b>		<b>11</b>	<b>8</b>	<b>72.7%</b>
<b>上 記 以 外 の 各 種 事 業</b>			<b>126</b>	<b>(16)</b>		<b>121</b>	<b>5</b>	<b>4.1%</b>

《注1》この統計は、労働者死傷病報告に基づく。(両年とも月末日までに機械入力処理した報告の集計である。)

《注2》□の数字は、死亡者数を内数で示している。

《注3》( )の数字は、新型コロナウイルス感染症に罹患した労働者数を内数で示している。

※ 参考:陸上貨物運送事業 3 139 (1) 127 12 9.4%

※「陸上貨物運送事業」とは、道路貨物運送業と陸上貨物取扱業を合わせた呼称である。

令和3年 業種別労働災害発生状況

[労働者死傷病報告に基づく休業4日以上災害の集計：確定値]

《 の箇所は、死亡者数を内数で示している。》

業種	局(各署の合計)				奈良労働基準監督署			葛城労働基準監督署			桜井労働基準監督署			大淀労働基準監督署											
	R3年	R2年	増減数	増減率(%)	R3年	R2年	増減数	R3年	R2年	増減数	R3年	R2年	増減数	R3年	R2年	増減数									
全産業合計	9	1,613	9	1,347	266	19.7%	5	828	3	645	183	2	484	4	399	85	164	2	147	17	2	137	156	-19	
製造業小計	0	365	1		269	9600.0%	0	160		107	53		102	1	79	23		50		42	8		53	41	12
食料品製造業		63		51	12	23.5%		28		27	1		12		6	6		13		9	4		10	9	1
繊維工業		9		4	5	125.0%		0		0	0		9		4	5		0		0	0		0	0	0
衣服その他の繊維製品製造業		6		1	5	500.0%		2		0	2		3		1	2		1		0	1		0	0	0
木材・木製品製造業		48		41	7	17.1%		7		8	-1		6		3	3		11		13	-2		24	17	7
家具・装備品製造業		9		5	4	80.0%		4		2	2		0		1	-1		1		1	0		4	1	3
パルプ・紙・紙加工品製造業		19		11	8	72.7%		4		1	3		13		8	5		1		0	1		1	2	-1
印刷・製本業		9		9	0	0.0%		6		6	0		1		1	0		1		2	-1		1	0	1
化学工業		59		52	7	13.5%		25		17	8		22		25	-3		11		9	2		1	1	0
窯業土石製品製造業		8		10	-2	-20.0%		8		3	5		0		4	-4		0		0	0		0	3	-3
鉄鋼業		8		8	0	0.0%		6		4	2		0		4	-4		1		0	1		1	0	1
非鉄金属製造業		1		0	1	—		0		0	0		1		0	1		0		0	0		0	0	0
金属製品製造業		60	1	37	23	62.2%		32		14	18		19	1	15	4		8		6	2		1	2	-1
一般機械器具製造業		21		12	9	75.0%		8		6	2		7		2	5		1		0	1		5	4	1
電気機械器具製造業		8		6	2	33.3%		7		3	4		1		2	-1		0		0	0		0	1	-1
輸送用機械器具製造業		11		1	10	1000.0%		8		1	7		1		0	1		1		0	1		1	0	1
電気・ガス・水道業		3		1	2	200.0%		2		0	2		1		0	1		0		0	0		0	1	-1
その他の製造業		23		20	3	15.0%		13		15	-2		6		3	3		0		2	-2		4	0	4
鉱業小計		0		1	-1	-100.0%		0		0	0		0		0	0		0		0	0		0	1	-1
建設業小計	5	163	3		136	2700.0%	3	78	1	63	15	1	47	1	35	12		13	1	17	-4	1	25	21	4
土木工事業	1	46	1	39	7	17.9%		18		12	6		12	1	11	1		3		4	-1	1	13	12	1
建築工事業	1	78	1	78	0	0.0%	1	38		44	-6		24		18	6		9	1	9	0		7	7	0
木造家屋建築工事業	1	34		35	-1	-2.9%	1	17		24	-7		10		8	2		2		2	0		5	1	4
その他の建設業	3	39	1	19	20	105.3%	2	22	1	7	15	1	11		6	5		1		4	-3		5	2	3
運輸交通業小計	3	151		152	-1	-0.7%	1	90		92	-2	1	34		35	-1		18		18	0	1	9	7	2
道路貨物運送業	3	136		125	11	8.8%	1	80		72	8	1	30		29	1		18		18	0	1	8	6	2
貨物取扱業小計		3		2	1	50.0%		2		2	0		0		0	0		1		0	1		0	0	0
林業小計		21	1	39	-18	-46.2%		3		1	2		2		1	1		3	1	12	-9		13	25	-12
木材伐出業		18		31	-13	-41.9%		3		1	2		1		1	0		2		8	-6		12	21	-9
その他の林業		3	1	8	-5	-62.5%		0		0	0		1		0	1		1	1	4	-3		1	4	-3
その他の各種事業小計	1	910	4	748	162	21.7%	1	495	2	380	115		299	2	249	50		79		58	21		37	61	-24
商業	1	260	1	228	32	14.0%	1	146	1	117	29		78		80	-2		28		16	12		8	15	-7
小売業		209	1	192	17	8.9%		114	1	105	9		66		64	2		22		12	10		7	11	-4
保健衛生業		340		226	114	50.4%		174		110	64		125		84	41		29		15	14		12	17	-5
社会福祉施設		242		154	88	57.1%		123		78	45		89		57	32		21		8	13		9	11	-2
接客娯楽業		85		85	0	0.0%		51		40	11		24		32	-8		7		5	2		3	8	-5
飲食業		44		47	-3	-6.4%		26		22	4		17		22	-5		1		1	0		0	2	-2
ゴルフ場業		22		8	14	175.0%		13		3	10		1		0	1		5		0	5		3	5	-2
清掃・と畜業		80	3	77	3	3.9%		47	1	48	-1		24	2	22	2		8		4	4		1	3	-2
ビルメンテナンス業		34		21	13	61.9%		22		13	9		9		7	2		3		0	3		0	1	-1
廃棄物処理業		42	3	54	-12	-22.2%		25	1	34	-9		14	2	14	0		2		4	-2		1	2	-1
警備業		19		11	8	72.7%		12		7	5		5		4	1		0		0	0		2	0	2
上記以外の各種事業		126		121	5	4.1%		65		58	7		43		27	16		7		18	-11		11	18	-7

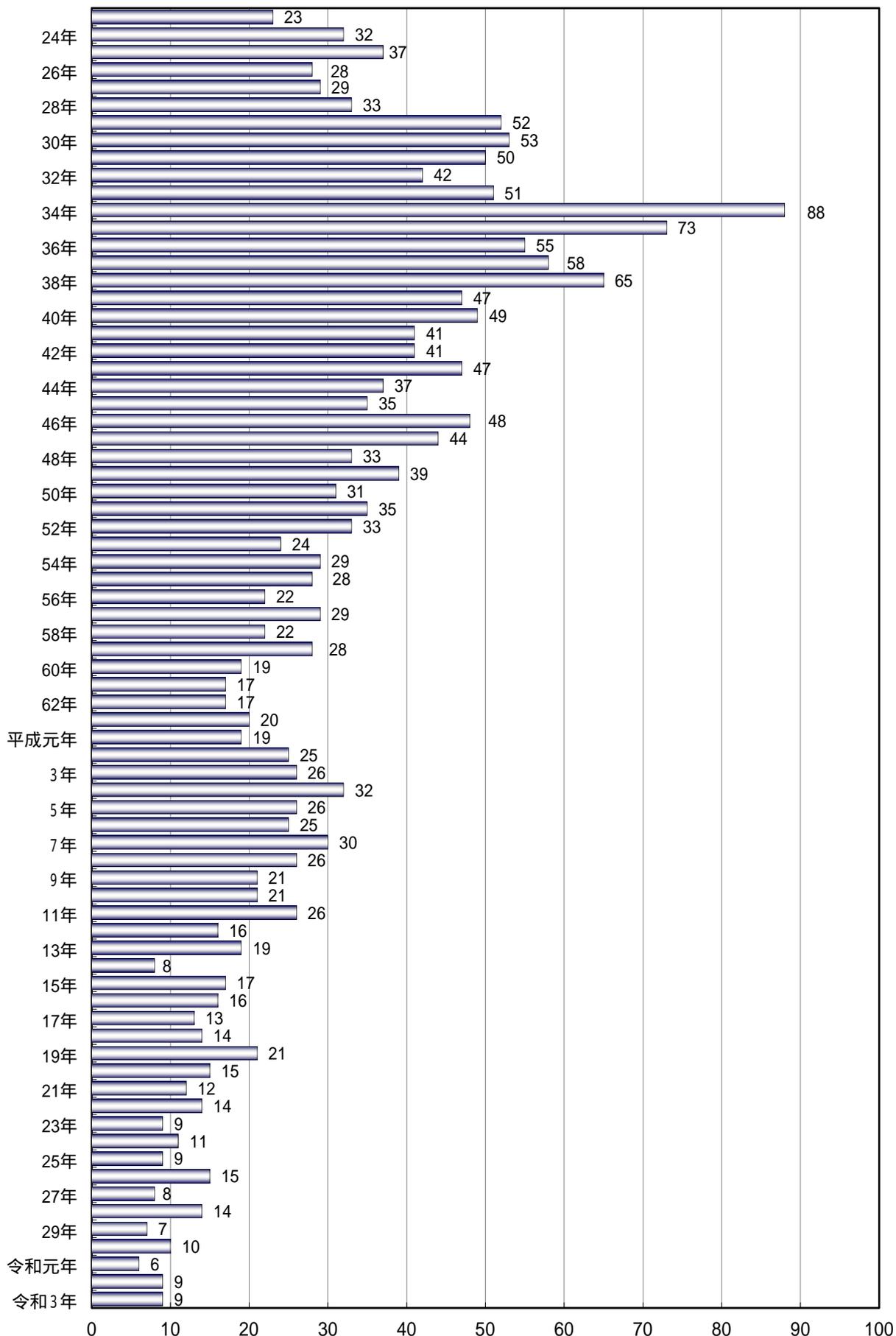
《注》 この統計は、労働者死傷病報告に基づく。(両年とも月末日までに機械入力処理した報告の集計である。)

令和3年発生の死亡災害事例

番号	署別	発生月	業種	災害発生概要	起因物 事故の型
1	奈良	1月	商業	段積みされたパレットをフォークリフトで運搬し、バックで旋回しながら検査台に載せようとしていたところ、運搬していたパレットが崩れ、検査台でパレットの点検作業をしていた被災者の頭上に落下し負傷したものの。	飛来・落下 フォークリフト
2	大淀	1月	運送業	4 tトラック（ウイング車）の荷台（高さ1.05 m）に積み重ねた木製パレット（高さ2.0 m）の荷下ろし準備のため、当該パレット上によじ登り、パレット上の緩衝材を外した後、パレットから降りる途中で墜落したものの。	トラック 墜落・転落
3	葛城	1月	建設業	テナントの資材搬出等を行う工事現場に一人で入場し、単独で作業を行っていたところ、墜落し、徒歩で病院に行き、診察の手續した後、病院の待合室で死亡したものの。（死亡原因、被災時の作業内容等詳細不明。）	分類不明 分類不能
4	葛城	1月	運送業	4 tトラックを運転し、富山県内の国道を走行中、急ハンドルを切り、対向車線をつっ切り、電柱に激突したものの。	トラック 交通事故
5	大淀	4月	建設業	桶門築造工事現場において、粉碎機（掘削した土をほぐす機械）の内部に入り粉碎機内部の清掃作業をしていたところ回転軸に巻き込まれたものの。	混合機・粉碎機 はさまれ・ 巻き込まれ
6	奈良	5月	運送業	事業場敷地内において、4 tトラックの荷台（高さ約1.3m）の後方から地上に降りようとして、あおりに手を掛けたところ、あおりが固定されておらず、回転したため、その勢いのまま地面に墜落したものの。	トラック 墜落・転落
7	奈良	8月	建設業	仮設足場から骨材用タンクの屋上に乗り移ろうとしたところ、渡ろうとした箇所にあった隙間（87 cm×56 cm）から約11m下の地面まで墜落したものの。	足場 墜落・転落
8	奈良	9月	建設業	木造家屋のリフォーム工事現場において、2階床下の梁（幅10 cm、約85 cmピッチ）に根太を設置する作業の準備中、梁上から約3.5m下の土間コンクリートまで墜落したものの。	屋根・はり等 墜落・転落
9	奈良	12月	建設業	事業主と労働者の2名が、生コンプラントのサイロ内部に入り、貯蔵された碎石の上で、サイロの内壁に昇降梯子を取り付けする工事を行っていたところ、サイロの下部排出口が開き、サイロ内の碎石が排出されたため、その流れに巻き込まれ、碎石内に生き埋めとなったものの。	石、砂、砂利 崩壊・倒壊

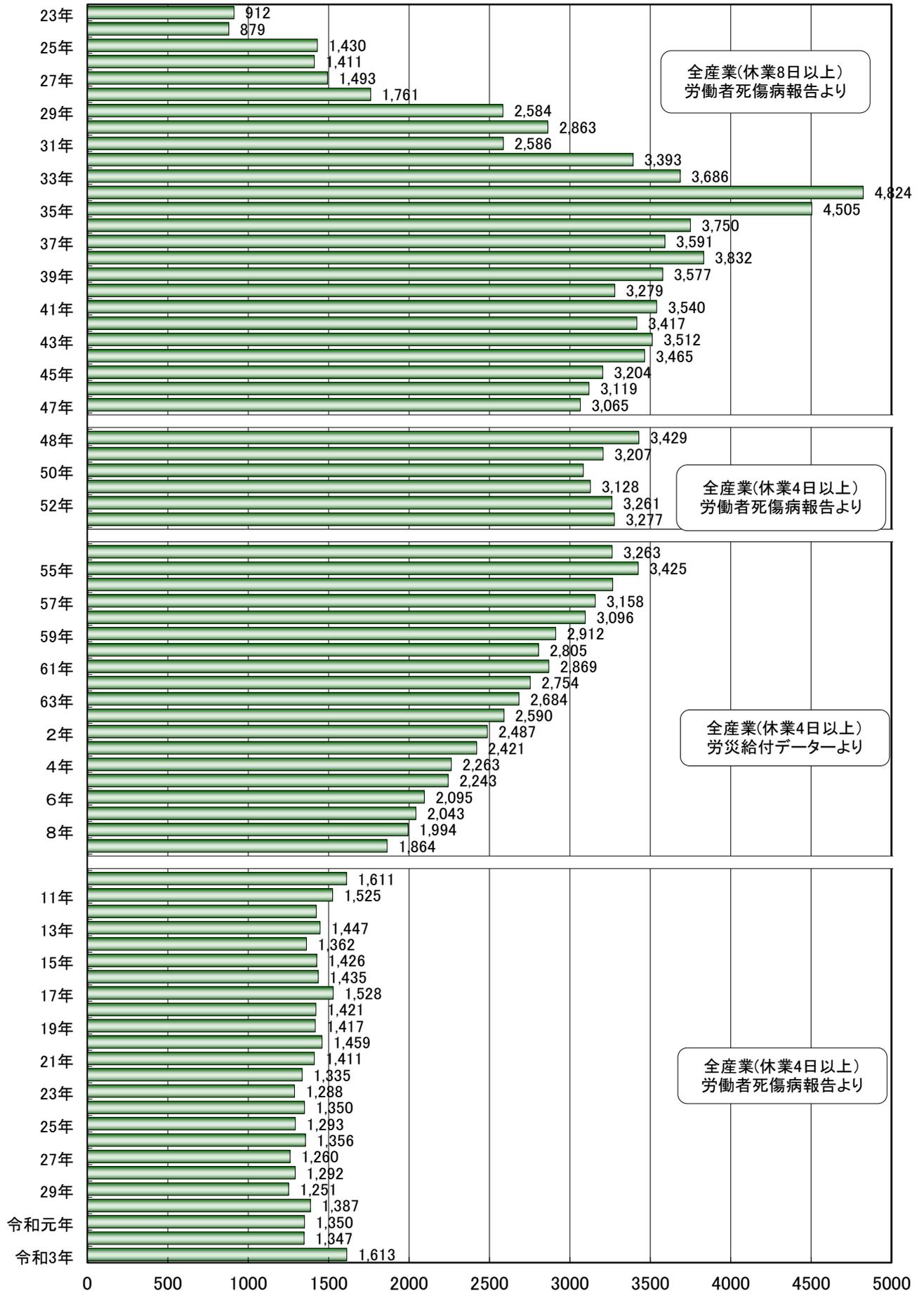
# 死亡者数の推移

参考資料 3

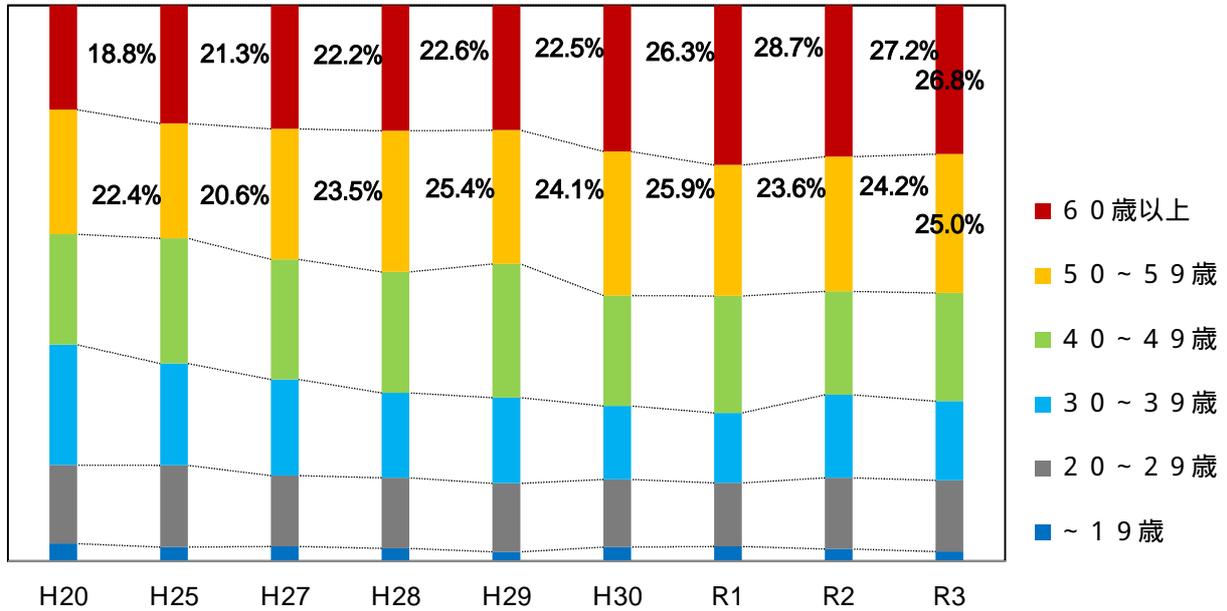


# 死傷者数の推移

## 参考資料 4

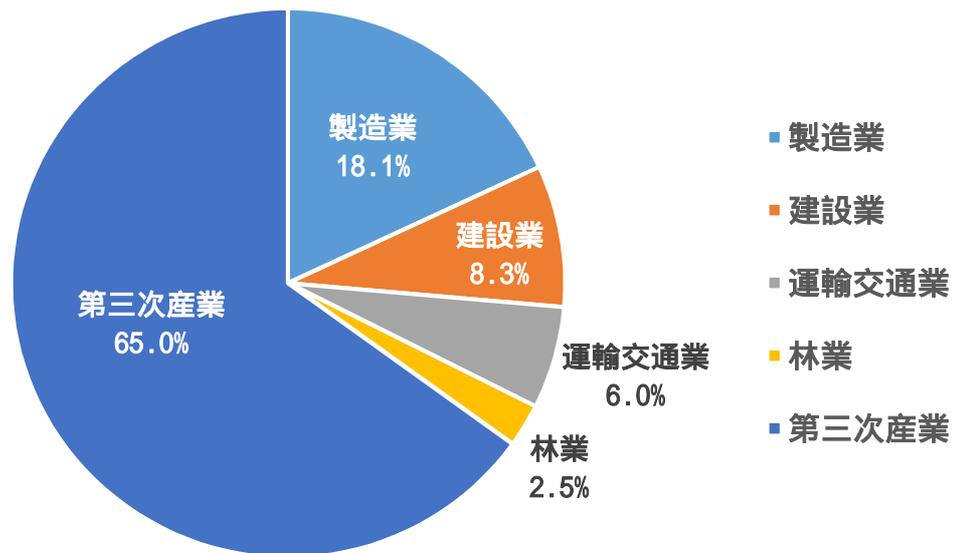


### 死傷者数に占める年齢別割合



\* 死傷者数を年齢別の割合で示したものの。

### 高年齢労働者の死傷者数に占める業種別割合 (R3)



\* 60歳以上の高年齢労働者の死傷者数(432人)を業種別の割合で示したものの。